

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

日々の授業に主体的に取り組めるよう、
身につけた力を発揮する「学びの舞台」を設定
大阪府立泉大津高校 片畑友亮 かたはたゆうすけ

9:45 漢字テスト、前回の振り返り



授業の冒頭、生徒同士で交互に問題を出し合う漢字テストを行った。次に、前時の課題「芦田愛菜のエッセーを基に読書の楽しみ方を考える」について、生徒が「学びの地図」(P.46 図) に書いた内容の一部を、片畑先生が紹介した。

本時の概要

【対象／教科／科目】 1年生／国語／現代の国語 【分野・単元】 「説得力を高めるために〈書く〉」(全8時間のうちの3時間目。P.47に本時の指導計画を掲載)

【育成を目指す資質・能力】 思考力、判断力、表現力

【学習内容】 本単元末には、市立図書館の推薦図書コーナーで紹介する本の推薦文とポップを作成するパフォーマンス課題を行う。その本選びのポイントを探るため、読書をテーマとした川上未映子みえこのエッセーを読んだ後、2つの課題に個人とグループで取り組み、本との出会い方について考えた。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

10:21 課題に個人・グループで取り組む



机間指導で、課題2が進んでいない生徒が多いと見取った片畑先生は、スクリーンに教科書を映し、ヒントになる部分を示した。5分間、個人で考えた後、再び、グループワークに移行。生徒はそれぞれ考えたことを述べ合い、課題2について考察した。

かたはた・ゆうすけ 教職歴8年。同校に赴任して9年目。進路指導部。国語科。大阪府教育センター兼充指導主事も務める。2021年度、カリキュラム・マネジメントのリーダーとして、同校の授業改革を主導。

学校概要

- ◎大阪府立第15高等女学校として設立。キャッチフレーズは、「君にしかできない夢(こと)が泉大津(ここ)にある」。3年間の学びと部活動、そして学校行事を通して、「人間力・教養力・協働的探究力」の3つの資質・能力を身につけることを目指す。
- ◎設立 1941(昭和16)年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2021年度進路実績(現役のみ) 私立大は、追手門学院大、大阪産業大、関西医療大、四天王寺大、阪南大、桃山学院大、神戸学院大などに延べ71人が合格。短大・専門学校進学157人。就職34人。



本時のキー課題

10:05 音読後、2つの課題に取り組む



主
深

4人1組となり、教科書の素材文である川上未映子のエッセーを、1人1文ずつ、交代で音読した。読み終わったら、本時の課題1「著者が言う『贅沢な読書体験』を指す文章を本文から抜き出す」と、課題2「著者が考えるお勧め本との出会い方についてまとめる」に個人で取り組んだ。

10:00 振り返りを基にペアで考える



主
対
深

片畑先生は、紹介した「学びの地図」の内容を踏まえて、「読書の楽しみ方が人によって違うのなら、こういったことに気がつけて本を選んだらいいと思う？」などと問いかけ、ペアで話し合わせた。生徒は、読書の楽しみ方について、さらに考えを深めていった。

10:30 「学びの地図」に振り返りを記入



主
深

生徒は「学びの地図」に本時の振り返りを記入し、提出した。最後に片畑先生は、次時では、単元末のパフォーマンス課題で紹介文を書くための本選びが課題となることを伝えた。「川上さんのように、目を閉じて最初に指先に触れた本を読むのもよいですね」などと声をかけ、授業を締めくくった。

10:26 課題の考察結果を全体で共有



主
対
深

課題の考察結果を全体で共有した。課題2について指名された生徒が発言できずにいると、片畑先生は、「ペアで相談しましょう」と言い、全員に1分間話し合わせた。発言ができないまま授業が終わらないようにするために、同じ生徒を指名。その生徒は、今度はしっかり発言することができた。

●私が目指す授業

自分の考えを表現し、他者と共有することを通じて、作品を深く読み解く

以前から、生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行ってきました。ただ、私の問いかけは、一問一答形式が多く、1人の生徒と私のやり取りが中心で、私が答えを誘導する形になっていました。その結果、生徒は、私の問いに解答するための読解にとどまっていたのです。

作品が自分にとってどんな意味を持つのかを考えながら、作品を読み解いてほしいという思いから、生徒が素材文について考えたことを表現したり、それを生徒同士で共有したりする活動を増やしました。すると、生徒は積極的に自分の考えを言うようになり、私が思いもよらなかった視点も出てくるようになりました。生徒を主体とした授業の重要性に、改めて気づかされました。2021年度からは、カリキュラム・マネジメントの視点からの授業改善を進め、国語科内で育成を目指す資質・能力を共有し、単元計画やワークシートを統一しています。例えば、「現代の国語」では、私

を含む2人の担当者が、単元目標や観点別学習状況の評価の3つの観点それぞれの評価基準、パフォーマンス課題などを記載する「単元設計シート」を交互に作成しています。また、そこには、作品をどのように読み取り、それを基に何を考え、テーマをどう掘り下げていくのかを明記するようにしています。そして、授業ごとの具体的な活動内容について2人で検討し、授業案やワークシートを作成しています。

そのように、授業の大枠や学習評価の方針は科目内で統一していますが、授業の進め方や進度、グループワークの内容などは、それぞれの担当者に任せて持ち味を發揮できるようにしています。

●私の発問・課題設定の観点

単元末の「学びの舞台」から逆算して授業を設計

日々の授業は、「学びの舞台」と呼ぶ、単元末に行うパフォーマンス課題から逆算して設計しています。部活動に例えると、パフォーマンス課題は公式戦で、日々の授業は基礎練習や練習試合です。日々の授業はもちろん大切ですが、それだけでは学習

意欲を保てない生徒もいます。練習の成果を發揮する公式戦のような位置づけとしてパフォーマンス課題を行うことで、生徒は日々の授業にも意欲的に取り組めると考えています。

本単元のパフォーマンス課題は、「今、大人こそ読むべき本」をテーマにした市立図書館の推薦図書コーナーに置く本の選定と、推薦文とポップの作成です。図書館から、コーナー作成の依頼があり、生徒にとってやりがいのある「学びの舞台」になると考え、課題に取り上げました。

そして、単元の3時間目となる本時では、推薦する本選びに向けて、本を読む際の様々な視点をつかめるよう、読書の楽しみ方を題材にした川上未映子さんのエッセーを読んでも、お勧めの本との出会い方について、個人やペア・グループで考える課題としました。

「学びの地図」で学びや失敗を可視化する

日々の授業は、「失敗してもよい場」であることを、生徒に意識させています。「授業は練習の場だから、何度間違えても大丈夫」などと年度初めから繰り返し伝え、自分の考えを臆することなく表現できるように、後

図 学びの地図(振り返りシート)

押しをしてきました。

本時では、課題2について指名した生徒が発言できずにいたため、全員に向けて、再度ペアで考えてみるように促し、もう一度同じ生徒を指名して、発言してもらいました。アウトプットすることができた状態で授業を終えれば、生徒は前向きな気持ちで次の学習に向かえます。1人の生徒の失敗は、その生徒だけでなく、全員にとって再度問いを深める

機会になります。失敗をそのままにせず、その場で乗り越えられるような支援を行うようにしています。

そして、日々の成功や失敗を自身の成長の糧にするためには、省察が重要です。そこで、毎授業の最後の5分間で、本時での気づきを「学びの地図」(図)に記入し、提出させています。生徒の記述にはすべて目を通し、赤字で必ずコメントして返却するとともに、ほかの生徒の視野

※学校資料を抜粋して掲載。

を広げるような記述は、次時の冒頭で紹介するようにしています。教師にとっては、生徒の学びが深まっていく過程をリアルタイムにつかめるツールになっています。

コメントをする際は、褒めるとともに、「ここはどういうこと？」などと、生徒が自分の考えを広げられるような問いかけをすることも大切にしています。私のコメントを踏まえて、さらに深い考えを書く生徒も多く、交換日記のように、言葉のキャッチボールが続くこともあります。

授業での学びが、日常生活や社会の見方を変えるきっかけとなることも意識しています。「学びの地図」での振り返りや授業での発言などに表れる生徒の気づきを取り上げて、一人ひとりの視野を広げるような声かけや発問を心がけています。

●成果と展望

「コース料理型」の授業から「バイキング型」の授業へ

授業で自分の考えを積極的に述べている様子や、「学びの地図」に書かれていた深い考察から、生徒が本気で読解に取り組んでいることが分

かり、授業改善の手応えを感じています。「授業が面白い」と生徒から言われることも、何よりの成果です。今後の課題は、「個別最適な学び」

の実現です。授業内の課題にはクラス全員が一律に取り組むので、早く終える生徒がいる一方、全く手が動いていない生徒もいます。ただ、後者の生徒でも、単元の最後の振り返りを見ると、深い考察に至っている場合があります。学び方や学びのスピードは、生徒によって異なるにもかかわらず、その点に現在の授業は対応し切れていません。

これまでは、ある問題をどのような手順で解決するのかを、教師主導で決める、言わばコース料理のような授業でした。今後は、単元目標と授業時数を示し、問題設定やその解決の手順を生徒に委ねる、バイキング形式のような授業に移行できればと考えています。

今年度は、「言語文化」の短歌の単元（4時間）で、「バイキング型」の授業を実践する予定です。生徒が学、ぶ方法や順序を考える、生徒主体の授業にすることで、1人でも多くの生徒が、自分に合った学び方を見つけることを期待しています。

単元の指導計画

【教科・科目】国語・現代の国語 【分野・単元】説得力を高めるために〈書く〉 【テーマ・作品】なぜ読書をするのか？ 【設定時数】全8時間（本時は3時間目） 【単元目標】読書の意義と効用について理解を深めながら、そのことについての自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	・ガイダンス ・「言葉を拾う」方法と効果	言葉を拾う方法や意義について理解する。 【知識、技能】	①本単元の目標、本質的な問い、最終課題（パフォーマンス課題）、学習の流れを説明する。 ②素材文を基に、引用の効果と作法について個人で考え、グループで考えを共有し、さらに全体発表で共有する。 ③本時の振り返りを「学びの地図」に記入する。	【主体的な学び】何のために、何を、どれくらいかけて、どんな流れで行い、それによってどんな力が身につくかを伝え、学習の見通しを持たせる。【対話的な学び】「間違っても大丈夫」を合言葉に、生徒が互いの発言を受け止められる場をつくる。	・学びの地図（形成的評価） ・定期考査（総括的評価）
2	・「読書の楽しみ方」とは 1	読書の意義と効用について、著者の考えを読み取る。 【思考力、判断力、表現力】	①前時の「学びの地図」の記入内容を全体で共有し、前時の課題への考えを深める。 ②読書の意義と効用について、2時間目は芦田愛菜の、3時間目は川上未映子の考えを個人でまとめ、グループ及び全体発表で共有 ③本時の振り返りを「学びの地図」に記入する。	【主体的な学び】前時の振り返りを全体で共有し、主体性を持たせる。【対話的な学び】「間違っても大丈夫」を合言葉に、生徒が互いの発言を受け止められる場をつくる。【深い学び】前時の振り返りを全体で共有し、新たな問いを投げかけることで、自身の考えが深まるようにする。	・学びの地図（形成的評価） ・定期考査（総括的評価） ・パフォーマンス課題（総括的評価）
3	・「読書の楽しみ方」とは 2				
7	・紹介文・ポップの作成 2	自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 【思考力、判断力、表現力】	①前時の「学びの地図」の記入内容を全体で共有し、前時の課題への考えを深める。 ②紹介文とポップを作成する。 ③本時の振り返りを「学びの地図」に記入する。	【主体的な学び】前時の振り返りを全体で共有し、主体性を持たせる。 【深い学び】前時の振り返りを全体で共有し、新たな問いを投げかけることで、自身の考えが深まるようにする。	・学びの地図（形成的評価） ・パフォーマンス課題（総括的評価）
8	・品評会	読書の意義と効用について、主体的に考えを深める。 【主体性、多様性】	①前時の「学びの地図」の記入内容を全体で共有し、前時の課題への考えを深める。 ②作品を見せ合い、コメントし合う。 ③単元の振り返りを「学びの地図」に記入する。		・学びの地図（形成的評価、総括的評価）

*片畑先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全8時間分は、ウェブサイト「VIEW next ONLINE」(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。「TOP →学校教育情報誌『VIEW next』 →高校版バックナンバー」をご覧ください。